常磐毎日新聞
夕刊　九月廿一日
日刊
定價　一ヶ月金[illegible]
日曜祝祭日の翌日休刊
發行所　常磐毎日新聞社
印刷所　常磐毎日印刷株式會社
電話　六三〇番

# 初漁のサンマが安すぎると陳情

## 業者が商工省へ

秋刀魚解禁と共に商工省では鮮魚類の公定價格を定め、秋刀魚は東京市最終小賣價格が百匁二十五錢と限定、一般家庭では一尾八錢程度の秋刀魚をふんだんに喰へることになつたが、石城各港の秋刀魚業者はこの値段ぢやどうしても算盤が合はないとばかり二十日商工省に秋刀魚の値上を陳情した業者の意見を聞くと

秋刀魚船一隻で三百反も必要とする流網が一反三十圓もする昨今、その準備だけで大變なのに漁期が十一月一杯といふ短期間なので漁夫の給料も他と比較して三割乃至五割高、兎角資材がなくて青息吐息のところに、東京小賣が八錢と來ては港鹽釜あたりの市場取引が三錢程度となるだらうこれぢや正直の話とても矢り切れませんや、せめて港の相場が五錢以上にならないと商賣あがつたりです

とある

# 女群も——鮮かな射撃振り

## 縣民射撃大會賑ふ

### 知事賞を得た後藤キヨさん

泉村宣手射撃場に於ける縣民射撃大會は十九日午前八時から開催、參加者二百五十六名に達し頗る盛會であつたが湯本町入山炭礦、泉、渡邊村の國婦、女子青年團員約七十名も男に混じつて鮮かな射撃振りをみせ銃後婦人の力强さを示した、入賞者は左の如くである

△師團長賞卅三點渡邊磐根（泉校訓導）△知事賞卅一點後藤キヨ子（湯本女子青年）△市長賞大平菊重（湯本）同小野若松（泉校訓導）同大平モト（湯本）同落合ヨシノ（同）同吉原キヱ（入山）△其他補龍雄他十八名

## 銃後女性　氣を吐いた

### 授賞者美談の一、二

（別項）泉村宣手射撃場で行はれた縣民射撃大會は女軍の參加多く織手よく男子を瞠若たらしめ驚異の的となつたが殊に湯本町からは知事賞後藤きよさん、市長賞大平もとさん、落合よしのさんを出し銃後女性の氣を吐いた後藤さんは兄俊雄曹長が滿洲に、大平さんは夫君大平國市中尉が北支に奮戰中で前線の夫へ、兄への祈りが豫期以上の成果を納めたもの

# 秋の取入れも僕達は手傳ふ……と

## 學童奉仕班張切る

既報御國のために身命を投げうつて働いてゐる兵隊達の留守部隊に對しては〝僕達も出來るだけお手傳ひしませう〟と平市及び石城郡下の學童、生徒の作業奉仕班は春の農繁期は勿論引續き八月の夏休みを利用して一齊に軍人遺家族の增產に向つて努力したがその出動延人員は平市が三千二百四十八人、石城が十八萬三千四百十六人に達しこの涙ぐましい活動に對し關係者一同感激してゐる、尚各學校では十月七日から實施される銃後奉仕强化運動に際し農繁期の後半のお手傳ひをさせることになり目下それ〲具体案を練つてゐる

## 結婚費用を節約

勿來

町窪田鈴木義壽さんは長男忠一郎君の結婚費用を節約して金廿圓を國防獻金十圓を同町婦人會に寄附

# 袋を張つて

## 銃後援護資金獲得

### 東部女青の活躍

平市東部女子青年團では昨二十日の商店公休日に午後一時から第三小學校で各自持寄つた古雜誌、古新聞などで袋はりを行つたがこれを市內各商店に賣却銃後援護活動資金に充てることになつた

## 前線から

### 貧困兒童へ心盡し

磐崎村長孫出身立花部隊寺田邦人上等兵は貧困兒童にお菓子でもとこの程金十円を前線から野木村長へ送付關係者を感激せしめた

## 競技馬授與式

既報去る十八日平工業學校敷地で開催された石城產馬畜產組合主催軍用保護馬鍛錬競技會の褒狀授與式は二十七日平國体事務所で行はれる

## 種馬共進會　出場馬決定

### 郡代表三頭

縣產馬畜產組合聯合主催第三十四回福島縣種馬共進會は十月九日より四日間郡山市開盛山で開かれるが石城產馬畜產組合の代表出場馬は左の如く十日は產馬總代人一同で視察することになつてゐる

△中藤號、三歲永戸村藤谷淸喜△日支號、三歲川前村佐藤豐彥△朗日號、三歲田人鈴木寅吉

# 災害復興工事と第二期擴張工事

## 內務。大藏へ小名濱から陳情

既報去る十八日の颱風で約萬圓からの被害を蒙つた小名濱町では小野町長が上京中を幸ひ高木助役、木田、志賀野口三町議及び水野漁業組合長は二十夜上京、小野町長とゝもに內務省、大藏省等へ小名濱港の第二期工事達成及び今回の災害復興方を陳情した

## 校庭へ　尊德像

### 大浦助役が寄附

大浦村助役渡邊周平氏は二千六百年記念に八百圓で高さ三尺八寸の二宮尊德の銅像を小學校庭に寄附することゝなり目下青年團員の手により基礎工事中で十月十七日建立式を擧行の豫定

## 竹帚を寄附

山田村字上山田最勝院金子ワサさんは手製の竹帚多數をこの程同村小學校に寄附

# 平金物商組結成

## 諸橋氏ら發起で

平市の金物商諸橋久太郎、山田茂一郎、關原新一郎の諸氏等發起となり平市ほか十六ケ町村の同業者を一丸として「平金物小賣商業組合」を結成することになりこの程マルトモホールで發起人會を開いた結果急速的に加入者を取纏め來月早々創立總會を開くことになつた、出資金は一口百圓、二百口二萬圓である

# 花輪などは一切を廢止

## 葬儀にも新體制

平市では新体制下葬儀における花輪、生花、放鳥供物等の贈答は一切これを廢止しやうと近く各區長を通じ一般市民に通達することになつたがこれは時局柄早くから叫ばれてゐたことだけに好評を博すものとみられる、但し供物料として贈ることは差支へないとのこと

## 軟式庭球延期

既報平市及び石城郡下一般の軟式庭球大會は明二十二日磐中コートで擧行される筈であつたが都合により十月二十日に延期された

## 市葬

平市南町出身故藤澤勳陸軍上等兵の市葬は二十八日午後一時から市公會堂で執行される

## 貯蓄獎勵金

### 平市へ二百圓

地方の貯蓄熱を一層高めるため遞信省貯金局交付の貯蓄獎勵金額はこの程決定されたが平市へは二百圓割當られた

# 降雨續きで鮎の大漁（鮫川）

## 相場は百四十割

植田地方鮫川は數日來の降雨で物凄い增水となつたが、名物の鮎群が產卵のため、どつと下流に降り始めた、鮫川漁業組合ではスハとばかり二十日朝上遠野村淵外二ケ所の簗をあげたところ約三百貫四千二百圓の大漁であつた、本年はこれが鮎の初漁でこの分なら十月末までには一千貫水揚げは確實だと組合では大喜び魚體は大きいのは八十匁平均五十匁で公定相場は百匁一圓四十錢で昨年の倍値である

## 飲食店の貯蓄報國

平市料理

組合では貯蓄報國に即應しこの程賣出した報國債券十圓券五十枚を購入各組合員に配布した、尙今後毎回賣出に購入する

## 地方駐在技術員會

### 勞力調整協議

縣農會では農用資材配給と勞力調整をはかるため縣下三ケ所で地方駐在技術員の協議會を開くが平地方は三十日平國休事務所で開かれる

小名濱支局通信

# 第二東日本丸と浦安丸

支局長　小野務平

東日本漁業株式會社の誕生したのは既に三年の昔である、そして其屬船の東日本丸は遠洋漁業として地方に於ける先鞭を着け其成績優秀を誇つてゐる、本年に入りても相も變らざる好成績は同業者にして何れも唾涎を禁じ得ざるものあるを喜ぶものである、この成績に依つてすつかり前途の見通しをつけた、水野重役は百尺竿頭、一歩を進めて昨年から第二東日本丸の出漁をも斷行した、昨年は第二の方は香はしき成績を擧ぐるに至らなかつたが、本年鰹漁期に臨んでは一大馬力をかけて出漁匆々から大漁に大漁を續け秋刀魚漁期に入るも猶且つ鰹漁の爲めに遠く北海道沖合に出漁し秋刀魚群の群集を發見して是れは無線によつて地方漁場にニユースを送つて居る。

鰹は南海に棲息するものと思ふと潮流の關係だらう北海沖合まで出けると云ふ世の中に、然かも勇壯な海の子たるの英氣を發揮して居る事は地方漁業振興の爲め大いに氣を吐くに足るものであらう。

所が第二東日本丸の本年度のニユースは鰹漁から秋刀魚期に入るを常であるが、之を取らずして直ちにハイ繩漁に轉向する筈で玆東日本漁業株式會社としての本年度の營業方針が多少の變更を見るに至つた。

それは平製氷會社專務たる松本一片氏が第二東日本丸と伯仲に在る漁船浦安丸を手に入れ經營する事になつて小名濱港に堂々たる雄姿を現はすに至つた、そして其噸數に於ては第二東日本丸と相違はないが漁艙に於て約一番半に比すべき貯藏量を以て居る處から水野重役と松本氏とは玆に手を握つて秋刀魚漁を共同でやる方針に出でたものである。

此の計畫は尤も時宜を得たるもので水產業の合理化的所作として其此處に至るの凡庸でない事を稱讃するものである、最近の漁業は小資本ではどうにもならない、玆に共同戰線に出づるの道唯一あるだけで況んや遠洋漁業をやでである、水野氏が率先遠洋漁業に乘り出し疑懼された暗雲を破つて然かも遠洋の將來に光明を與へた其功績は萬人の共に頌する處であて、今亦漁業經營の上に合理化經營に出でんとすることは何時なからの先覺的精神の澎湃たるに敬意を表するものである。

今や漁業と云はず戰時下に於ける各種業種は何れも物資統制下に苦慮措く能はざるものあるにも不拘、この合理化營業經營の許に餘裕しやく〳〵として其本領を發揮し得るの手腕は水野氏にして初めて見らるゝ處であつて他の追隨を全く免さない長所であらう、增產獎勵の今日此方針に依つて邁進せんとする東日本漁業株式會社の前途に多幸あれと祈つて已まぬ次第である。

× × × ×

——（完）——

# 手錠のまゝ狂女の家出

## 四倉署で搜査中

既報就寢中の夫を庖丁で斬付けた精神病者大野村大字駒込字馬場農義郎氏妻吉田シヅイ（三九）さんは其後兩手に手錠をはめられ家人の監視を受けてゐたが十九日午前四時から五時迄の間に家人の隙を見て行方を晦ましたので間違ひがあつてはと目下同家並に四倉署で各方面に手配搜査中である

## 勿來軟式野球大會

勿來

町軟式野球大會は今二十一日勿來校庭で行はれたが第二回戰は二十八日擧行される

# 愛田に懲役二年

昨日支部の判決

既報葬式の酒を强か飲んだ揚句同僚と些細のことから喧嘩をはじめ毆打、遂に死亡せしめた大野村王山農愛田儀三郎（四四）にかゝる傷害致死事件の公判は廿日平支部で菅野裁判長係りで開廷されたが懲役二年（求刑三年）の判決があつた

## 小野君散華

### 豐間出身の

北支の戰闘で

豐間町出身小林部隊所屬小野茂吉上等兵は十四日北支で戰死した旨二十日原隊から發表された

## 平市人事

回婚姻

△田町四五楢村正（二七）氏と仙臺市土樋七一佐藤てつ子（一九）さん

# ラヂオ

## 今晚の部

▼後六、〇〇　子供の時間　唱歌と朗讀（一部）一、齊唱「校歌」二、朗讀「我が校のほこり」三、齊唱「進水式」文部省唱歌四、〃「噴水」〃唱歌　鹽釜第三小學校兒童（朗讀）第六加藤泰子（二部）一、挨拶二、唱歌（イ）大日本海洋少年團歌鹽釜海洋少年團長塚田宗興鹽釜海洋少年團（アコーデオン）伴奏小倉叶

▼後六、二五　講演「獨逸精神と佛蘭西精神」間崎萬里

▼後七、二〇　鄕土に寄する言葉（錄音）日本ポリドール（專屬歌手）青葉笙子

▼後七、三〇　國民歌謠　國民進軍歌（獨唱）澤崎定之（合唱）日本放送合唱團

▼後七、四〇　講演「世界の動きと中南米」加藤外松

▼後八、〇〇　ラヂオ小說　…家庭婦人の夕…「野口英世の母」

▼後八、三五　箏曲「落箏」米川文子（三絃）川瀨里子

▼後八、五〇　ラヂオドラマ「戰地の子供」藤間廣一

▼後九、三〇　朗讀「防空部隊員の手記」（三）和田アナウンサー

## 明日の部

▼前六、三〇　季節の話題　秋と果實

▼前六、四五　季節の聲

▼前七、〇一　史蹟めぐり　關ケ原古戰場

▼前八、〇五　ピアノ獨奏　一、道化師　二、圓舞曲　外　舟橋靜子

▼前九、三〇　子供の時間　解說付管絃樂　一、歌劇「魔彈の射手」二、獨逸讚歌三、合唱と管絃樂「タンホイザー」行進曲」日本放送交響樂團（指揮）ヘルムートフエルマー

▼前一〇、二〇　錄音（紀行）初秋の熊野路

▼後〇、〇五　管絃樂　一行進曲「國民進軍」二、歌劇「フイガロの結婚」外　陸軍々樂隊（指揮）隊長大沼哲

▼後〇、四〇　東京大學野球聯盟秋季試合實況…明治神宮外苑野球場より中繼

▼後六、〇〇　子供の時間　連作童話劇「たんれん部隊」大阪放送こども會

▼後六、二五　日本文化講座「日本音樂の特質」町田嘉章

▼後七、二〇　鄕土に寄する言葉（錄音）邦畫家酒井三良

▼後七、三〇　週間の動き　川原次吉郎

▼後八、〇〇　航空日本の歌發表會…神田共立講堂より中繼…航空日本の歌　一、合唱二、歌唱（指導）合唱藤山一郎〃伊藤久男、〃二葉あき子、〃霧島昇（伴奏）コロンビアオーケストラ（歌唱指導）佐々木すぐる

▼後八、三〇　浪花節「仇討日本晴」相模太郎

▼後九、〇〇　長唄「船辨慶」（唄）杵屋六左衞門〃中村六廣、〃杵屋吉之丞（三味線）岡安喜三郎、〃杵屋六郎次外

▼後九、三〇　管絃樂「祖先の土」東京放送管絃樂團（合唱）日本放送合唱團

小兒科內科
酒井醫院
◉入院隨意（電話五五）
醫學博士酒井保
平市字南町

X光線科
外科內臟外科
院長　安齋徹
—新設—
▽入院隨意△
平市田町
安齋醫院
電話四五七番

完壁の防空は先づ我等の手で
燈火管制用
クレツプ
『黑幕紙』チリメン紙
—の御利用を—
本クレツプ紙は强靱無比、布に比し價格低廉なる事、內面は吹雪模樣、縞模樣等にて体裁優美にして而も遮光萬點、事務に、作業に、家庭に是非御覽の上御利用下さい
町村團体、警防團等の大量御購入の節は特に御相談申上ます
代理店　三國屋印刷所
市內發賣店
紺屋町　スガノヤ提灯店
いづみや玩具店
本田製本店
大町　富岡商店
半谷商店
湯本町　岡田園茶舖

各位益々御隆祥の御事ご祝福仕り候
本月廿四日は故古泉大尉滿三年忌に相當り候に付忌祭の爲め歸平致し候遠隔の地に在りて墓掃除も自由ならず常に各種團體並に皆樣の心からなる御墓參を頂き御蔭を以て良善寺塋域に安らかに眠り居る事と感謝仕候　實は一々拜趨御禮を申上可くの處御尊名伺ひ洩れ多く且つは歸滿の日も差迫り居り乍失禮當紙上を以て謹んで各位に御禮を言上仕候　敬具

昭和十五年九月
平市堂ノ前一佐々木方にて
故古泉大尉父
古泉延隆

割烹
花村
平市田町　電話四番

## 松井勇劍傳

第百八十一回

[illegible]　民次郎

今日も[illegible]に於ては二人の[illegible]と共にブラリ[illegible]の隠れ[illegible]を出で[illegible]から[illegible]つて天王寺からかゝつて來た、途に人目を避けて[illegible]で[illegible]を包んでゐる、今大[illegible]の[illegible]で來る上[illegible]內に付けて來た大阪九郎の[illegible]分で[illegible]大金兵衛といふのが

「若し旦那[illegible]の[illegible]」

「何だ」

「これが有名な四天王寺の大[illegible]でござえます」

「ウム」

「ウムおやありませんぜ。[illegible]れもしねえ、三年前の今頃だ。旦那の兄様が此處で松井市兵衛といふ侍とバッタリ[illegible]をお合せなすつた。それがもとで此處で市兵衛と決闘[illegible]ひとたり、お[illegible]の[illegible]にも兄上は市兵衛のため[illegible]く切りつけられて[illegible]なすつたのでござえますぜ[illegible]そうだ丁度の返でござえましたか、それを親分が聞きつけて[illegible]と[illegible]付けなされて市兵衛を[illegible]けて兄上の御無念を晴らそうとする所へ[illegible]しく通りかかつたのが紀州[illegible]の行列、どういふものか紀州[illegible]は市兵衛をお匿まいなせえました、大阪三[illegible]ちや[illegible]れる[illegible]もねえ家の親分も[illegible]が紀州[illegible]といふから[illegible]もなんねえ、[illegible]泣き[illegible]入りをなされたのでござえます」

と、兄[illegible]の[illegible]の[illegible]を聞かされて[illegible]し

「フム、金兵衛そのことは[illegible]九郎親分からも聞いたが、さぞかし兄も[illegible]に思つたことであらう。[illegible]しまあその[illegible]みは[illegible]が[illegible]で[illegible]らしたから初めてもの[illegible]りと[illegible]ふものだ」

「そうでござえますね。[illegible]が[illegible]を通る[illegible]にあの時の[illegible]が[illegible]ひ出されてなんねえでがす。それはそうとひどくくたびれましたから[illegible]にある茶店へでも[illegible]入つて一服して參りませう」[illegible]

金兵衛が先に立つて[illegible]にある茶店へ[illegible]入らんとする折しも此の大鳥居の[illegible]に[illegible]んだ二人の武士、ジッと此方を[illegible]つてゐる様子、[illegible]に腕[illegible]つ身の九郎兵衛もそれと見てハッと驚いた、[illegible]く[illegible]先方も同じく[illegible]にて[illegible]を包んでゐるが正しく松井[illegible]次郎今一人は[illegible]の[illegible]人でもあるのか何にしても[illegible]付けられては一大事と[illegible]く茶店の中へ飛込んだがその[illegible]に腰を下ろさずスウーと[illegible]へ抜けて行く。金兵衛や[illegible]、[illegible]は不[illegible]に[illegible]つて

「モシ旦那何處へ[illegible]らつしやるんで……モシ」

と呼び止めたが九郎兵衛耳にも入れずそのまゝ[illegible]口へ抜けて[illegible]と此方を[illegible]いて[illegible]招きをいたします。如何にも[illegible]子ありげな其の[illegible]に金兵衛、[illegible]十郎、[illegible]太左衛門も[illegible]口へ出る

「旦那如何たすつたのでござえます」

[illegible]ペリ[illegible]らねえが[illegible]りませう。[illegible]ん一服させて[illegible]ふと[illegible]つたが少し[illegible]いた[illegible]を[illegible]ひ出したから此[illegible]から[illegible]るよ。これは茶代だ」

茶代を投げ出した。茶店の[illegible]からドシ〳〵[illegible]いだ。

「旦那、まあお待ちなすつて下せえ。何だか[illegible]らねえ、[illegible]にでもつまゝれた[illegible]でげえすが[illegible]どうしたと[illegible]ふんです」

[illegible]十郎も

「[illegible]氏、如何なされたのでござるか」

[illegible]を見[illegible]してほつと吐息を吐いた九郎兵衛

「[illegible]めて[illegible]いたであらう」

「[illegible]くにも何にもサッパリ[illegible]がわからねえんで」

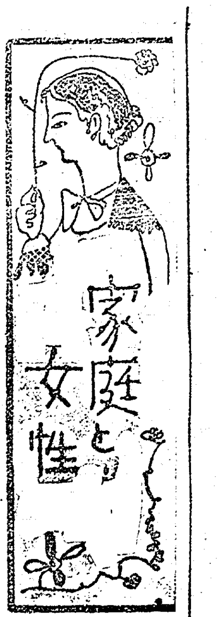
「イヤ[illegible]に[illegible]い[illegible]に[illegible]つた」

「えつ、[illegible]い[illegible]とは[illegible]にお[illegible]ひた[illegible]すつた」

「フム[illegible]を[illegible]じく兄の[illegible]と[illegible]つてゐる松井市兵衛の[illegible]次郎と[illegible]す[illegible]に[illegible]を見られた[illegible]だ」

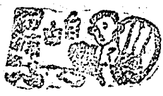
「えつ、それは何處で」

「あの鳥居の[illegible]に[illegible]んでゐた[illegible]こそ、[illegible]しかに[illegible]次郎[illegible]に[illegible]の[illegible]人と[illegible]、何時この地へ[illegible]つたか[illegible]らぬが[illegible]た[illegible]で[illegible]。何にいた[illegible]して[illegible]に[illegible]れなくなつた」



## 新體制と婦人

金子しげり



新體制の指導理念が萬民翼賛の全國民組織である以上、積極的參加と協力を要請せられるはづの全國民中には、當然その半數を占める婦人がふくまれてゐるものと考へられる。けれども、この當然をうごかせない事實とするためには國民組織における婦人の位地について具體的な注文を婦人側から提出しなくてはならない。

まづ國民の各界各層を網羅する上意下達、下意上達の國民組織において、中央指導部に、婦人界の推進力たりうる婦人若干名を參加せしめること。中央指導部の下に結成せられるべき各部門―政治、經濟、文化その他―の中に、青年とならんで婦人部門を設けること。更に議會議員さんの部門にも婦人の參加をみとめること。このためにはちかく結成される新體制準備委員會にもまた婦人を參加せしめなければならない。

これらの要求は自由主義的な男女同權思想から出發するものでは斷じてない。婦人がその負へる職能を自覺し、これを通して國家に貢獻しようとする熱意の發露にほかならない。結局のこされた問題は、新體制をめぐる人々がそのもてる封建性をいかに揚棄するかのみではないであらうか。

◇家庭メモ◇

牛乳の嫌ひな子に牛乳をのませたい時、ソーダ水などを飲ますストローを當てがつてやると、子供はめづらしがつて喜んで飲むものです。お試し下さい

---

### ≡當然の疑問≡

## 女に「贅廢」を求める男の頬かむり

竹内茂代さんの話

贅澤廢止は女に求めると同樣に男の生活にも行はれなければなりません、男の浪費で一番問題になるのは使途の明かでない金です。待合へつぎ込む金などは明かな收入ばかりではありませんから殊に問題です。贅澤廢止運動は一面から云へば精神運動で、ゆび輪一つの、ことでありませんから男が歩調を合せなければ何にもなりません、花柳界へ金をまき散らすことを止めなければならぬことは皆が知つてはゐるのですが

●贅澤行爲が問題です。ただちに存在が否認できなければ制限してもよいのですが、强制力なく自發に俟つ精神運動だけでは不可能で、法の力を發動させなければ實現はできず、政府にその意さへあれば方法は求められるのです

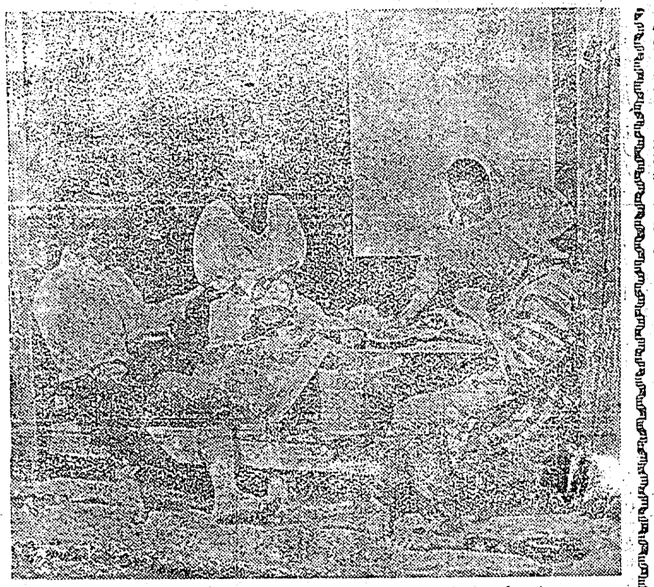
花柳界を廢して生活に脅威を受けはするでせうが、商業で暮しぬいてゐる人は各方面にたくさんゐるのですから、花柳界の人間だけを特別扱ひにはできません、資本制度を色々な名目をつけて存續させ、數をふやして行けば墮落する女は殖えるばかりで、この女たちは勤勞の能力がなくなりますから人的資源が

●國策の● 第一にいはれる今日益々矛盾を大きくするやうなことはゆるされません、同時にかうしたところに必ず附隨するのは性病とアル中で、この害は今更こゝに說明するまでもなく少くとも飛行機に乗れるやうな子供はできません。これからの子供は誰でも飛行家になれるだけの體位をもたなければならない時代になつてゐるのです

あらゆる階級の男がかうした享樂をともなふかもしれませんが一週二日禁酒とかの制限から漸次に導いてゆく方法はあると思ひます

●男は女ほど身邊の品などは買ひませんが、かうした特殊な贅澤を今のところ頬かむりしてゐます。私の身邊の卑近な例を見ても妾は特等に入院し、本妻は三等に入院するなどといふ事實が最も目につきます

次に率先に奮起して時代の先頭に立たなければならない學生を中心とした若い男のぜいたくで私の目につくのは飲食店での濫費です。ただうろうろと町をあるいて、誰かおごつたから今度は誰といつた具合にあつちこつちへ皆歩いて使ふ金は若い男の生活費の他の項目にくらべて非常な多額なものです。さ末なことをいふやうですが、街頭で靴をみがかせてゐる學生をよく見かけますが、金額にかゝはらずかうした、精神的ぜいたくは、絶對に廢すべきでせめて學生々活の間ぐらひは靴は自分で磨く程度の勤勞精神を持つてもらひたいと思ひます



晝食のひと時

---

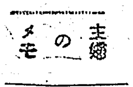
店員及女中さん募集

一店員 年齡十五歳以上廿五歳 給料十四圓以上二十五圓

一女中 年齡二十歳以上三十歳 給料二十圓

希望者履歴書封入至急御申越あれ雇入の場合旅費を支給す

東京市京橋區木挽町五の二
東京銀座附近歌舞伎座前角
創業四百年
まぐれ蛤 佃煮
桑名貝新 東京支店
電話銀座二〇〇六番



主婦のメモ

◎魚類の調理方◎

魚類を調理する時は、手ちかの器に鹽を取つておき、ゆび先にその鹽をつけながら魚を扱ふとすべらずうまく扱へます。

---

## 長壽者はどの地方に多い？

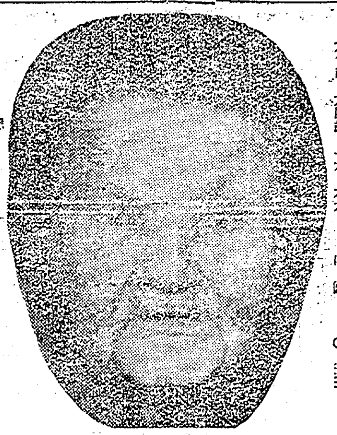
長壽者はどの地方に多いか？東京府立高校校長橋田邦彦氏が大正十四年以來、全國一萬九千五百三十八人につき調査したところ、まづ年齡別にして

九十歳―九四歳 一六、六六六
九五―九九歳 二、五九二
百歳―百四歳 五三
百十歳―一一四歳 一一

この中には女が大多數を占め、九十歳から九十四歳までに二倍、九十五歳から九十九歳までと百歳から百四歳まではいづれも一倍半、百五歳から百九歳までは四倍強で、女が斷然多いのです、次に長壽者の最も多いところといへば、第一が愛知縣の七百九人、ついで長崎、廣島、兵庫、熊本、鹿兒島、千葉、靜岡、島根、愛媛の順序で最も少いのは秋田縣の五十五人、次で沖繩、山形、宮城、奈良、佐賀、青森、香川の順となつてゐます、更にこれを人口との割合からしますと

| 地方別 | 割合 |
|---|---|
| 四國 | 〇・五三 |
| 九州 | 〇・三八 |
| 關東 | 〇・二七 |
| 北海道 | 〇・一七 |
| 朝鮮 | 〇・〇八 |
| 中國 | 〇・五二 |
| 中部 | 〇・三七 |
| 東北 | 〇・一八 |
| 臺灣 | 〇・一四 |

長壽者は內地では東北地方がもつとも少く四國、中國、九州地方に多いこととなりますからさむい地方よりあたゝかい地方に長壽者が多いわけです



婦人病 帶下症・尿路疾患 中耳炎・淋病・歯齦炎 等に對する經口化學療法劑

内服 プロゾン錠

本劑は純國産ズルフオアミンにして効果偉大就中淋疾婦人病に對し治療期間を短縮し强力なる効果を發揮す

定價 百錠入 六圓 五十錠入 三圓五拾錢 二十錠入 壹圓五拾錢 （内地送料十五錢代引料廿七錢）

東京市芝區南佐久間町一ノ五二
發賣元 二葉衛生研究所
電話芝八〇六 振替東京一二四一四

長壽には肉食か菜食か

なにより病毒が大禁物

ふる血あれば生命危し

肉でも魚でも多く食べると邪毒になる。その毒が血管の內側にたまると血の流れる孔がせまくなり血行を妨げて俗に云ふ血の病や頭の病が起ります。それに病毒や酒毒が加はると毒性は一層猛烈となり身體中を、經廻つて至る所に惡性病の種をまき散らす。中でも恐ろしいのはその猛毒が頭の大切な部分を侵かして腦底や瘋狂ひたらしめたり、腦の小血管をやぶつて腦溢血や中風をおこさしめることであります。ですから常に野菜食に重きを置き病毒、酒毒等からなるふる血の發生を防ぐことはもちろん大切ですが、既に發生せるふる血は速やかにこれを取つて血液をきれいにせねばなりません。今此除血療法トシテ古醫學研究所に於て各博士再檢討によるふる血療法を紹介皆樣の御注意をおすゝめいたします

排毒と順血にフルチ錠

主効 痔疾、膀胱、脊髓病、血壓亢進症、動脈硬化症、中氣、半身不隨症、心悸亢進症貧血、ゼンソク、リユマチス、神經痛、ヒステリー、頭痛、常習便秘

藥價 十一日分 三圓 廿二日分 五圓 五十日分 十圓 家庭適用 廿圓 （全國有名藥店に有り）

病毒排除 ちのめぐり 血液循環とふる血療法 （四六判冊子）無代進呈 ハガキで申込めばすぐ送る

◇こんな症狀の方は是非一讀あれ

・頭重、耳鳴、肩凝、手足のしびれる人（中氣、神經痛）
・動悸、息切れして盜汗、冷汗に惱む心臟弱き人
・便秘がちで吹出に苦しみ眠れぬ人（痔疾、神經衰弱）

東京市京橋區京橋一の九の二
申込所 古醫學研究所
電話京橋二五八四番・二六三八番 振替口座東京六五三〇八番

---

## 暴風地帶

櫻井北道作

第八十八回 淚の叫び（十）

澄子がなさる客にひかされて出て行つた時聞かされた時顔二の腕はまるで縄を噛るやうな苦しみであつた。

——たうとう澄子は純潔を去つてしまつたのだ。

さう思ふと泣かずにはゐられなかつた。

『自分が戀してゐる』とおもつてゐる』

といふ『月よし』のお君からの聞信を信じて、あれからどんなに澄子を强く慕ふたか……考へて見れば、みんな、みんな悲しい涙の夢であつた。の手にさらはれて行つてしまつた考へて見て、これほど情なしいことはなかつた。

カアー、カアー

何處からか薄氣味の悪い夜鴉の鳴き聲が聞えて來た。

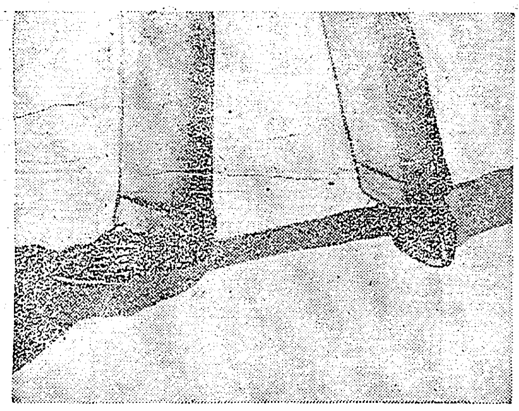
『夜鴉？氣持が悪い』

つぶやくやうに云ふと、彼は頭をひーしたやうに寝床を敷いてもぐり込んでしまつた。

寝床に入つてからも、澄子のことが考へられてなかなか寝つくことが出來なかつた。

——もう駄目だ。縁の切れた風船だ。あきらめてしまへ。

さういふ聲がむくむくと頭をもたげて、彼の心をしきりにつくけ



彼は、只一人の部屋にあつて誰に氣兼ねもなく、恥らいもなく思ひ存分に泣いた。

——俺は何といふ馬鹿ものであつたらうか。

さもさも當然とおさまつてゐたのが、おかしいほど腹立たしかつたが、今更怒つて見たところでどうなるものでもなかつた。只、不運であつたとあきらめるより仕方がなかつた。

とはいへ、これを簡單に不運であつたとあきらめ得やうか。

一時は花の天國にあそび、勝利者のやうに、澄子と樂しい語らひを續けたのに、僅かの行き違ひがとうとうこんなところまで來てしまつたのであつた。

——もうだめだ。彼女は泥沼へ入るやうになつたのであらうか？

といふ疑念が湧いて來た。」

家を捨てゝ飛出したのは、一途に自分のふところへやつて來るものとばかり思つてゐたのにアテとはすつかり向ふからはづれて。

澄子は何處の馬の骨とも判らぬ男れども、すぐその後からそんなことはあり得ぬ事であるといふ考へが起きて來る。

——澄子さんは矢つ張り自分の所へ戻つて來る。

さういふ深い悩みを捨てることが出來ない彼であつた。かう思ふと、

……若しかしたら澄子さんは死んでしまつたのではあるまいか

といふ不安も頭を出す。

……併し、もう見知らぬ男にひかされて行つた女だ。何時までも女々しく考へるのはやめにしなければいけぬ。最後なんだ。あの女とは再び逢ふことは出來ないのだ

× ×

櫻の花が散つた後は、目に見えて若葉が、色濃くなつて行つた。

僅かばかりの庭の黒土も何となく活氣を帯び、名も知れぬやうな雑草も伸びて行つた。

やがて梅雨期がやつて來るのだと思ふと、それだけでもう頭が重くなつて行くやうに思はれた。

……どうせ、自分は踏みにじられた路傍の雑草だ。どうでもなるやうになるがいいさ。

---

貝やき と"美味しい" みりんぼし
『鰹節製造販賣』
志賀盛榮商店
平市四丁目（電話二一三番）
日本生命平代理店

開業
内臓外科 整形外科
平市大町二番地
内木外科醫院
醫學博士 内木宗八
電話二九六番
◎入院隨時

開業
民刑法律事務一般
内外特許事務一般
辯護士 辨理士 増田法律特許事務所
平市字搔摺小路一
電話平六二五番 振替仙臺一〇九三五番

開院廣告
内科 外科
叶多醫院
平市六丁目
電三九二

▽是非！
御融通には御用命下さい萬事便利な御相談に應じます
公債、債券、質物一般
三井質店
平・四 電話六〇六番

吸入用酸素 99%純度
度量衡 モノサシ ハカリ マス
計量器 體温計 寒暖計
秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス
開内藥局 電話四〇番
寫眞材料一式販賣致シマス

花柳病科 外科
木村外科醫院
平市南町（警察署通り角）電話三〇九番

◎女車掌（三名至急募集）
1、未經驗者ニ限ル
2、委細面談
3、優遇ス
平市二丁目
三井タクシー
電六八五番

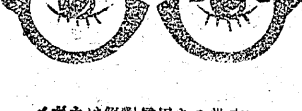
吉田眼科醫院
平市紺屋町 電話六八番
醫學士 吉田久雄

…お買物なら 在庫品豊富な…
平市田町 銀座通り
玉屋洋品店
電話六五六番

初秋!!!
（とんかつ専門の店）
興亞の春を迎ひどうぞ一層の御ひいきで御引立をお願ひ致します
▼出前は迅速に御つとめ致します。
平市仲田町（電話四六五）
かの家
營業時間 自 午前十一時 至 午後十一時

高久病院
内科小兒科 耳鼻咽喉科 外科花柳病科
院長 醫學士 高久忠
副院長 新潟醫學士 赤羽清
藥局長 藥劑師 佐竹菊雄
平市田町 電話五一三番
◎看護婦至急募集

平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
内科 小兒科 副院長 鈴木定藏
内臓外科 一般外科 副院長 高橋俊幸
泌尿器科 レントゲン科 物理的療法科 院長 鈴木定藏
藥劑科 部長 吉本孝平
◎診療時間 毎日午前八時ヨリ午後九時迄（夜間診療ニ従事ス）（急患ハ此ノ限リニアラズ）

メガネ専門の店

メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい……
玉屋
平市本町二丁目

カメラ用品と現像引受

さくらクローム フィルム
お用命は
西村屋藥局寫眞部
平2・電3

内科 外科 一般
金成醫院
金成忠義
平市錄田町 電話三五八